

2. 本プロジェクトの概要

本プロジェクト授業の目的は、グローバルな人の移動が進展するなかで形成されたエスニック・コミュニティの変貌やホスト社会への影響などを調べることである。また、一定期間の外国滞在後に帰国したケースも含めたトランスナショナルに展開するネットワーク形成のあり方も対象としている。とくに1980年代後半に日本国内で急増したバングラデシュ出身者でその後帰国した人たちを対象に、日本とバングラデシュのかかわりを個人史的視点と同時期における両国の社会状況的・制度的変化の視点から、聞き取り調査を中心に明らかにする。また副次的に、日本とバングラデシュ間の人の移動に加えて、バングラデシュ国内で多岐にわたる活動を展開している世界最大規模の NGO, BRAC を取り上げ、急激な変動過程にある同国の社会状況を理解する。

より具体的には日本国内のエスニック・コミュニティと帰還者とのトランスナショナルな絆、移住者を送出した国（バングラデシュ）の変化、日本とバングラデシュの両国に関連する組織活動等、国内とダッカでのフィールドワークを行う。バングラデシュは、近年日本企業の海外の生産拠点の一つとしても注目されるようになってきたが、多くの日本からの帰還者がいかにかわるか、両国に跨って活動する組織などについて、実証データを収集する。研究期間は2014年度から2016年度にかけての3年間を当初の計画として、展開次第では延長することもあり得る。各年度とも、調査を実施することで、授業と研究を両立させる。

<授業計画および教育上のねらい>

次のような授業の展開を予定している。①対象となる地域やエスニック社会にかんする文献を講読、インタビュー等の方法論を学ぶ。②先行研究のまとめとそれぞれの調査計画を設定する。③フィールドワークおよびインタビュー、質問票調査などを行う。④各自の報告書を作成する。⑤シンポジウムあるいは学会などで発表する。量的、質的な調査の方法と解析を学習する。

バングラデシュ、ダッカでのフィールドワークおよび国内での情報収集については、外国人居住者支援の NGO、”Asian People’s Friendship Society”の協力を得ることになっている。本 NGO は、1987年12月に創設されて、これまで外国人住民の支援を行ってきた。とくに1980年代後半に数多く訪問したバングラデシュ出身者との絆が非常に強い。近年のメンバーは、フィリピン出身者が多くなっている。このような日本国内の住民組織による運動は、バングラデシュとの絆を保持しており、今回の調査でもそのトランスナショナルなネットワークが活用された。

授業としては、調査の計画や実施、分析、報告書作成などのスキルの向上を計画している。実際に調査計画の策定を経験することで、調査を実施するまでに必要な事項や、分析に至るまでを学び、修士論文、博士論文のテーマによっては、直接的につなげることができる。また、若干異なるテーマの論文作成を目指していても、調査の方法論などを経験的に学ぶことができる。

<2014 年度の主たる調査>

詳細は 3. 活動記録で報告しているように、初年度である 2014 年度は、板橋区に本部を置く NGO “Asian People’s Friendship Society” への訪問調査のほか、日本からの帰還者へのインタビュー調査と、次年度以降のフィールド調査のための関連機関とのネットワークづくりを目的に、2014 年 9 月 14 日から 9 月 18 日までダッカ市を訪問した。